

警戒レベルと避難行動

令和元年6月より、避難情報等に加えて、住民が情報の意味を直観的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを提供し、とるべき行動とその対応が明確化されました。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
~~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難！ ~~~~~			
<b>4</b>	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(注)
<b>3</b>	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
<b>2</b>	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
<b>1</b>	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)

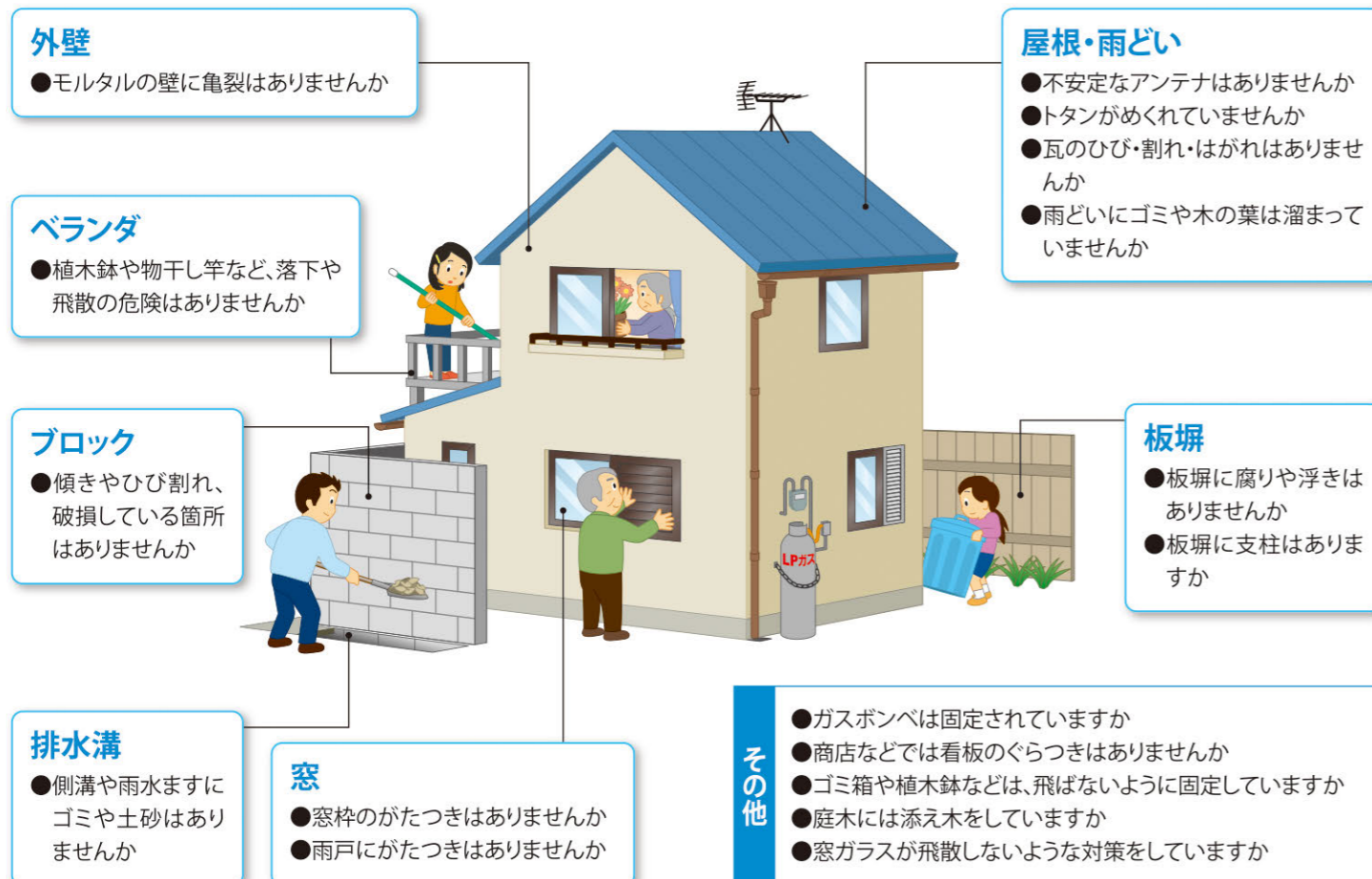
※1 災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

(注) 避難情報等は、令和3年梅雨期から運用開始予定の情報を記載しています。

## 風水害への備え

台風や大雨による被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



## 雨の強さ・降り方と災害の危険性等

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返りで足元がぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

※表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生する場合や、小さな被害にとどまる場合もあります。

### 長時間の降雨に注意しましょう —危険な線状降水帯—

長時間の雨を降らせるものとして、線状降水帯があります。線状降水帯とは、激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し、線状に並ぶものをいいます。数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞するため、激しい雨が長時間降り続き、大規模な浸水や土砂災害の危険性が高まります。

## 河川の氾濫発生情報

多可町では、災害発生のおそれがあるときや災害の発生が確実なときには、『災害対策本部』を設置して対応します。また、災害の危険性が高まり、避難が必要となる場合には避難情報を発令します。どの情報かを判断し、適切な行動をとってください。

